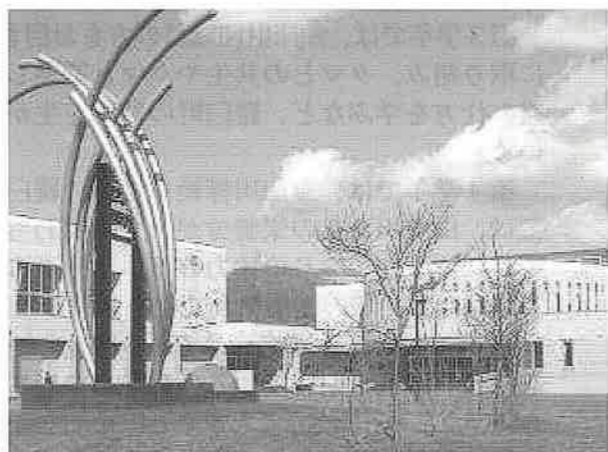


令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路市地区
- 2 事例報告学校名：釧路市立阿寒小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 西村 浩一
- 4 キーワード：地域における幼小中高の連携

1 はじめに

本校の所属する阿寒地区は、釧路市の北西に位置し、平成17年に釧路市と合併した。タンチョウが飛来する学校として、総合的な学習の時間に子どもたちによる給餌活動も継続してきた。写真にある校舎前のオブジェはカリヨンという巨大なオルゴールで、定時に美しい音楽を奏で、時を知らせてくれる。そもそも阿寒本町地区は釧路市の中心地や阿寒湖地区から距離的に遠く、それらの中間に位置する。そして合併前から阿寒町という一つの町として、幼稚園、小学校、中学校、高校の連携が育まれてきた。一方で児童数は減少の一途をたどり、数年後には複式学級の設置も視野に入れなければならない状況である。釧路市では目指す学校の在り方が示され、今後、小中一貫教育により、学力向上や校種間ギャップ等の課題解決を目指していく。また、2024年度中には釧路市中心部と高速道路がつながる予定だが、宅地開発の動きもあるようで、人口の動態に影響が出ることが予想される。2021年度には阿寒中学校とともにコミュニティ・スクールに指定され、地域とともにある学校づくりを目指しているところである。

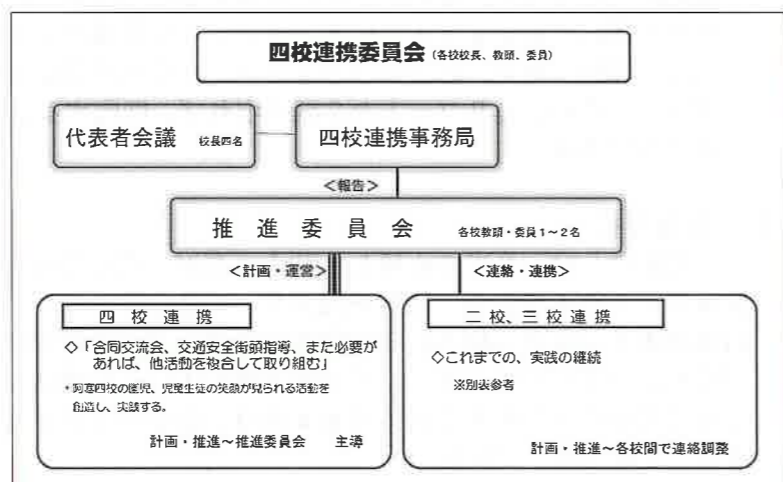


以上のとおり、課題のある一方で多くの特色がある阿寒本町地区であるが、その中から四校連携委員会について紹介していく。

2 阿寒本町地区四校連携委員会の組織体制

阿寒本町地区では、合併前の旧阿寒町時代より四校連携委員会を組織し、現在まで継続してきた。阿寒認定こども園、阿寒小学校、阿寒中学校、阿寒高等学校の学校教育目標実現のために連携することで、双方に大きな成果を得る活動の創造・充実・発展を図ることを目的とする。当初は、管理職同士による情報交流が目的だったようであるが、年を重ねていく中で教職員の担当同士の交流に広がり、さらには子どもたちの交流にまで発展してきた経緯がある。

組織体制としては、右図のとおりとなっている。まず園長、校長による代表者会議が開かれ、年度の方向性を話し合う。それをもとに担当教員を集め、園児・児童・生徒による合同交流会について内容を検討する。



3 四校連携委員会の活動の様子

実際の活動に際しては、園児・児童・生徒の合同交流会がメインとなっている。それ以上に重要なのが、園長・校長同士による情報交流である。次に活動の具体的な様子について示す。

(1) 合同交流会

長らく新型コロナウイルス感染症の流行により中止していた合同交流会であるが、今年度は3年ぶりの開催となった。小学校のグラウンドにこども園の園児、中学校生徒、高校の生徒が集まり、高校生のリーダーシップの下、交流行事を行う内容である。開会式は高校、閉会式は中学校の生徒会が担当するなど、分担もしている。交流の中心は四校合同のレクリエーション活動である。縦割りのグループをつくり、グループの対抗戦を行ったり、グループ内で自己紹介をしたりするなど、活動を楽しむことを通して、お互いに心を通わせることができていた。



(2) 交通安全街頭啓発活動

街頭啓発活動に関しては、密にならないことから、新型コロナウイルス感染症に関わらず、毎年継続して実施してきた。こども園の園児が安全運転啓発用の手旗を作り、小学生・中学生・高校生が日時を合わせて学校近くの国道に立ち、手旗を振って街頭啓発活動を行うものである。ドライバーは地域の住民も多く、車中から笑顔を返してくれるなど、活動を温かく見守ってくれる雰囲気を感じた。



(3) 園長・校長同士による情報交流

四校の園長・校長が集まり、情報交流をする。昨年度は年間4回程度、今年度は2か月ごとに開催している。昨年度は、園児・児童・生徒の兄弟姉妹や保護者に関する情報を共有する中で、生徒指導上の問題の早期解決につながる場面も少なくなかった。子どもたちや家庭に対する細かな配慮につながることも交流の大きな価値である。

(4) 各校の担当者による推進委員会の実施

四校の合同交流会や交通安全街頭啓発活動に関しては、各校の担当者が集まり、実施に関する細かな打合せを行っている。四校の担当者が顔を合わせ、お互いが知り合えること自体、大きな連携となっている。一般の教職員同士が顔見知りになることは、何気ない日常の連携につながるものと期待できる。

4 おわりに

四校連携が可能だったのは阿寒地区が他地域から離れているという地理的特性だけでなく、必要感をもち活動を連綿と継続してきたこれまでの園長・校長方の努力によるところが大きい。幼小・小中・中高それぞれの連携が求められる中、四校連携は理想的な形態である。しかし、例えば、今求められている「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」などに関しては、四校連携委員会で積極的に進めているとは言えず、今後深めていかなければならない課題である。

小中連携に関しては小中一貫教育推進により確実に進むと思われるが、四校の連携についても継続していくことであろう。実は、昨年度からスタートしたコミュニティ・スクール協議会には、こども園の園長、高校の校長にも委員に加わっていただいている。コミュニティ・スクールの観点からも四校の連携を進めていく中で、地域の協力を仰ぎながら、地域の子どもたちを、地域社会全体で育てていく意識を高めていきたい。